

祭 REDISCOVERY

粥占神事(かゆうらしんじ) <枚岡神社>

大阪府東大阪市の枚岡(ひらおか)神社は、社伝によると、神武天皇の命により、天種子命(あめのたねのこのみこと)が、神津嶽の頂(現在は枚岡神社奥宮があります)に、天兒屋根(あめのこやね)大神と比売(ほめ)大神を祀ったのが始まりとされます。768年、奈良の春日大社創建の際には、天兒屋根大神、比売大神の二神を分祀しました。このため元春日社と呼ばれることになりました。778年には、春日大社から、嶽饗槌(たけみがづち)大神、斎主(いわいぬし)大神の二神を迎えて合祀したとされています。延喜式神名帳には名神大社に列し、平安時代末から「河内国一の宮」として厚く崇敬されています。枚岡梅林でも有名で、一帯は「かおり百選」(枚岡神社の社叢)に選定されています。

「粥占神事」は、大阪府無形民俗文化財に指定されていて、1月11日に、古式ゆかしい伝統の作法に則って行われます。社殿左側の神饌所(別名:お竈殿)にて、古式に習って火鑽杵(ひきりきね)で竈の火を起し、小豆3升、米5升の小豆粥を大釜で炊きます。この間に竈の火の中に入れた12本の占木の焼け具合で一年の各月の天候を占います。一方、粥の中には、長さ15cmの占竹(竹筒)53本を束にして沈めて、竹筒に詰まった粥の量で53種類の農作物の豊凶を占います。この占竹による御本殿御垣内の儀は非公開ですが、結果は15日の小正月に行われる「粥占奉賽祭」に占記として頒布されます。現在、神事は1月11日に行われていますが、昔は1月14日夜に行われ、翌15日早朝に占竹が割られ、その場で読み上げられて、一般参列の人々に結果が伝えられていました。



鶯(うそ)替神事<大阪天満宮>

鶯替神事は、菅原道真公を祭神とする各地の神社において行われます。東京の亀戸天満宮、福岡の大宰府天満宮、そして大阪天満宮のものなどが有名です。鶯は、スズメより少し大きめの鳥の名前で、オスは頬から喉にかけて美しい深紅色をしています。道真公が無実の罪で大宰府に左遷された翌年の1月7日、神事の最中に、寒中であるにもかかわらず、無数の蜂が襲来して参拝者を悩ませたときに、一群の鶯が飛来して、蜂を食い尽くして人々を救ったそうです。道真公の愛鳥「鶯」が「嘘」に通じることから、前年にあった災厄・凶事などを、嘘として、本年が吉となることを祈念して、鶯替神事は行われます。

毎年7月24日から25日にかけて行われる、日本三大祭の一つ天神祭で有名な大阪天満宮の鶯替神事は、1月24日・25日の両日行われます。午後1時頃、本殿前では参拝者に「鶯替御守」(封筒の中に鳥の形をした紙の鶯が入っています)が配られ、太鼓の音に合わせて、「替～えましょ。替～えましょ。嘘を真に替～えましょ。」と声を交わせながら、その御守を近くにいる人と、何度も何度も交換を繰り返していきます。最後に手元に残った御守袋を開いて、紙の鶯の裏に、金や銀といった文字が書かれていれば、それらの鶯の御守が授与されます。何も書いていなくても、この紙の鶯が御守代わりとなります。この紙鶯の裏には「心づくしの神さんが うそを真にかえさんす ホンニまことにかえさんす ホンニうそ替えオ、うれし」と、1819年(文政2年)頃の大阪のはやり唄が紹介されています。

文:ODA広報委員会 イラスト:大和田 昌